

インダー™フロアブル

園芸用殺菌剤

幅広い病害に有効で、落葉果樹の重要病害に安定した効果を示し、残効性にも優れています。

- ・褐斑病、灰星病に予防効果!
- ・おうとう、ももは収穫前日まで使える!
- ・高希釈濃度で、経済的に使える!
- ・果実汚れが少ない!

りんごの
「赤星病」「褐斑病」
「黒点病」「すす点病」
「すす斑病」で希釈倍数
が変更となり、
幅広くお使いいただける
ようになりました。



「果樹」の病害防除には
インダーフロアブル。

園芸用殺菌剤

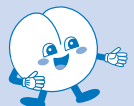
●適用病害と使用方法(抜粋)

*本剤およびフェンブコナゾールを含む農薬の総使用回数

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	散布液量	使用時期	使用回数*	使用方法	
りんご	赤星病 うどんこ病 黒星病	5,000~12,000	200~700ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	
	モニリア病	5,000					
	褐斑病 黒点病 すず点病 すず斑病	5,000~10,000					
なし	黒星病	5,000~12,000		収穫7日前まで			
	赤星病	8,000~12,000					
	輪紋病	5,000					
	うどんこ病	5,000~10,000					
かき	炭疽病 うどんこ病 落葉病	5,000		200~400ℓ/10a	摘採7日前まで		2回以内
もも	灰星病 黒星病						
ネクタリン				灰星病			
すもも	灰星病 幼果菌核病						
あんず			黒星病 すず斑病				
おうとう	黒とう病 うどんこ病 灰色かび病 褐斑病						
うめ			8,000	収穫30日前まで	3回以内		
ぶどう	灰色かび病						
ブルーベリー			炭疽病 褐色円星病	200~400ℓ/10a	摘採7日前まで	2回以内	
茶	もち病 網もち病						
りんどう	花腐菌核病 葉枯病	5,000	200~300ℓ/10a	発病初期	5回以内		

詳しくは製品ラベルをご確認ください

●作物別使用上のポイント ※りんご、なしの使用上のポイントについては、それぞれの作物別ちらしに記載されています。そちらも参照下さい。



もも

灰星病に優れた予防効果と治療効果を示し、果実への汚れが少ないので、収穫直前の防除に適しています。また黒星病にも安定した効果があるため、同時防除が必要な果実肥大期の防除剤としても適しています。



おうとう

灰星病に安定した予防効果と治療効果を示し、特に果実の感染・発病を阻止する力に優れています。また、収穫前日まで使用でき、果実の汚れも少なく、収穫期に近づくほど利用価値が高まる剤といえます。



ぶどう

黒とう病に優れた効果を示すため、生育期防除の必要な露地栽培の巨峰や甲州等の黒とう病防除に適しています。またうどんこ病や灰色かび病にも安定した効果があります。低濃度で使用できるため果面汚染の少ない薬剤です。

このように薄めればインダー

●インダーフロアブルの希釈早見表(必要な薬量)

希釈倍数	希釈水量	300ℓ	500ℓ	600ℓ	1,000ℓ
5,000倍	60mℓ	100mℓ	120mℓ	200mℓ	
8,000倍	37.5mℓ	62.5mℓ	75mℓ	125mℓ	
10,000倍	30mℓ	50mℓ	60mℓ	100mℓ	
12,000倍	25mℓ	42mℓ	50mℓ	83mℓ	

- 幅広い果樹に使える!
- 優れた予防効果と治療効果!
- 低濃度でよく効く!

⚠ 使用上の注意

- ・貯蔵中に分離することがあるので、使用に際してはよく振ってください。
- ・使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 安全使用上の注意

- ・誤飲に注意してください。誤飲の場合には、吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせてください。
- ・散布の際は、保護眼鏡、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。



- ・本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。
- ・眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- ・密栓し、食品と区別して、直射日光を避け、なるべく低温な場所に保管してください。
- ・畜に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

●使用前には、ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は、ほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗淨水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

本資料は2024年11月現在の知見に基づき、作成されています。